

十日町市博物館 年報

— 第 6 号 —



平成31・令和元年度

刊行にあたって

当館は昭和54年（1979）の開館以来、「妻有地方の自然と文化」をテーマに掲げ、「雪」と「織物」と「信濃川」を柱に、博物館友の会と車の両輪のごとく協力して活動をしてきました。その中で、重要文化財「越後縮の紡織用具及び関連資料2,098点」（昭和61年指定）、同「十日町の積雪期用具3,868点」（平成3年指定）、すばらしい造形美を誇る火焰型土器を含む国宝「新潟県笹山遺跡出土深鉢形土器57点（附871点）」（平成11年指定）を生み出しています。また、展示もこれまでに増築およびリニューアルを行い、三つの常設展示室をもつにいたしました。

現博物館は令和元年12月2日（月）をもって閉館し、以後、新館のオープン準備を進めております。本書をご高覧いただき、ご指導ご鞭撻いただければ幸いです。

十日町市博物館

目 次

I 館の運営	1
1. 来館者の状況	1
2. 博物館協議会	2
3. 予 算	3
II 事業の概要	4
1. 教育普及・展示事業	4
2. 新博物館建設事業	7
3. 縄文文化発信事業／縄文・里山文化による誘客促進事業	8
4. 資料の収集・貸出	10
5. その他の事業	11
III 博物館友の会	11
附編 博物館関連データ（補遺）	12

例 言

1. 本書は、十日町市博物館の平成31・令和元年度の事業報告である。
2. 本書に掲載されている写真の無断掲載（転載）を禁じる。すべての著作権は十日町市博物館と撮影者・提供者に帰属する。
3. 本書の編集は菅沼 亘（学芸員）が行った。原稿の執筆は職員で分担し、文末に氏名を明示した。
4. 本年度の事業を行うにあたり、関係諸機関および多くの皆様から多大なるご協力をいただいた。個々に名前を記すことはできないが、お礼申し上げる。

（表紙写真：新博物館の竣工・平成31年3月）

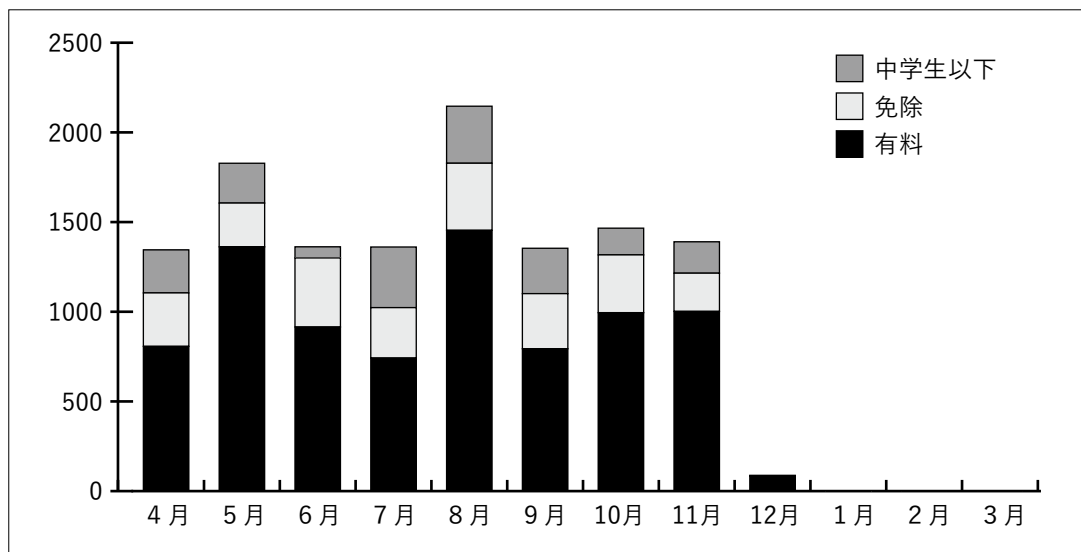
I 館の運営

1. 来館者の状況

①月別の推移

来館者数の月別推移は、以下のとおりである。中学生以下は無料、高校生以上が有料となっている。

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
一 有 料	807	1,362	915	742	1,454	794	995	1,002	83	0	0	0	8,154
般 免 除	298	244	385	281	374	307	322	213	1	0	0	0	2,425
中学生以下	240	222	62	338	318	253	149	175	4	0	0	0	1,761
合 計	1,345	1,828	1,362	1,361	2,146	1,354	1,466	1,390	88	0	0	0	12,340



月別来館者数一覧

②視察と団体受け入れ状況

入館料減免申請書や博物館視察・見学・研修依頼書、電話により受け入れた団体について、小学校14校、中学校1校、その他の48団体に分けて以下に示す。(引間 佳子)

	小 学 校 名
1	十日町市立松代小 (4・6年)
2	十日町市立吉田小 (4・6年)
3	十日町市立貝野小学校 (3・4・5・6年)
4	十日町市立西小 (3・5年・部活動)
5	十日町市立馬場小 (3・4年)
6	十日町市立下条小2年生
7	十日町市立川治小3年生
8	十日町市立十日町小3年生
9	魚沼市立堀之内小6年生
10	南魚沼市立中之島小6年生
11	南魚沼市立後山小6年生
12	上越市立美守小6年生
13	小千谷市立東小千谷小6年生
14	東鷲宮小 (埼玉県)

	中 学 校 名
1	十日町市立中条中1年生

	団 体 名
1	観光コンシェルジュ
2	全日本博物館学会
3	NPO法人国際縄文学協会
4	縄文女子ツアー
5	民族衣裳普及協会
6	ブラジル使節団 (ブラジル)
7	ウィーン少年合唱団 (オーストリア)
8	マレーシア
9	新潟県国際協会 (中国)
10	新潟県ユースホテル協会

小・中学校・その他の団体一覧

	団 体 名
11	悠々ライフ（見附）
12	新田荘史跡ガイドの会
13	小千谷市木津団地福祉会
14	瀬波上町区（村上）
15	けんしん寺尾東支店（長岡）
16	上越市老人クラブ
17	巻郷土資料館友の会
18	新潟県振興局長会議
19	松之山ゆとり大学
20	新潟市歴史博物館ボランティア
21	新発田市
22	秋葉区新町長寿会
23	長岡市名所めぐりサークル
24	小千谷市片貝公民館婦人会

	団 体 名
25	加茂良寛会
26	新潟どぶろくツアー
27	装苑セキ
28	南魚沼市舞子観光協会
29	川口第一老人クラブなごみ会
30	九輪草
31	朝日旅行ツアー（関西方面）
32	西東京市郷土文化保存会（東京）
33	加曾利貝塚ガイド（千葉）
34	長崎県松浦市 市議会
35	福島県立博物館友の会（福島）
36	小樽ライオンズクラブ（北海道）
37	秋田県大仙市講座（秋田）
38	藤岡土器埴輪友の会（群馬）

	団 体 名
39	茅野市中央公民館（長野）
40	クラブツーリズム
41	沼田市ユネスコ協会（群馬）
42	京都産業大学松本ゼミ（京都）
43	北信越市長会
44	早稲田大学地学同期会
45	大人塾（関西圏内）
46	かつやま老人クラブ（山梨）
47	早稲田大学オープンカレッジ（東京）
48	渋川市公民館運営審議会委員（東京）

その他の団体一覧

2. 博物館協議会

協議会は年に2回開催され、各回の詳細は以下の通りである。委員は10名で、今年度は2年任期の改選の年となった。

第1回：令和元年8月29日(木) 13:30～15:00 委員10名出席

- ・令和元年度博物館事業計画及び実施状況について
- ・新十日町市博物館建設状況について

第2回：令和2年3月17日(火) 13:30～15:30 委員8名出席

- ・令和元年度博物館事業の実施状況について
- ・新十日町市博物館の開館スケジュールについて

(笛田 晃)

氏 名	職業・所属団体（役職など）	備 考
宇都宮 正 人	十日町市博物館友の会 会長	委員長、社会教育
市 村 正 史	十日町市文化協会連合会 副会長	副委員長、社会教育
長谷川 吉 徳	十日町青年会議所	社会教育
南 雲 秀 彦	十日町市立西小学校 校長	学校教育
池 田 正 義	十日町市教育センター 嘱託指導主事	学校教育
庭 野 直 美	十日町市立飛渡第一小学校 PTA会員	家庭教育
福 原 梢	十日町市立下条小学校 PTA副会長	家庭教育
高 橋 和 広	人権教育・啓発推進計画策定委員	公募
滝 澤 青 葉	十日町農業協同組合 職員	公募
服 部 昌 子	愛宕幼稚園 保育職員	公募

(順不同・敬称略)

博物館協議会委員一覧（任期：平成31年4月1日～令和3年3月31日）

3. 予 算

平成31年度の予算は以下のとおりである。

(大滝 孝子)

歳入予算

(単位：千円)

款 項 目					
節	説 明		当初予算額	補正額	補正後予算額
13款 使用料及び手数料	1 項 使用料	7 目 教育使用料			
5. 博物館入館料	5. 博物館入館料		1,897	0	1,897
13款 使用料及び手数料	1 項 使用料	7 目 教育使用料			
5. 博物館入館料	10. 施設使用者使用料		22	0	22
20款 諸収入	5 項 雑入	2 目 雑入			
7. 教育雑入	1. 私用電話料		1	0	1
20款 諸収入	5 項 雑入	2 目 雑入			
7. 教育雑入	2. 私用コピー使用料		1	0	1
20款 諸収入	5 項 雑入	2 目 雑入			
7. 教育雑入	3. 施設使用者電気料		22	0	22
20款 諸収入	5 項 雑入	2 目 雑入			
7. 教育雑入	70. 古文書講座資料代		40	0	40
20款 諸収入	5 項 雑入	2 目 雑入			
7. 教育雑入	98. その他雑入		1	0	1
21款 市債	1 項 市債	9 目 合併特例事業債			
3. 教育債	62. 新博物館建設事業		398,200	0	398,200
計			400,184	0	400,184

歳出予算

(単位：千円、千円未満切り上げ)

節		当初予算額	補正額	補正後予算額
1. 報酬	博物館協議会委員	110	0	110
2. 給料、7. 賃金	一般職給料・臨時職員賃金	5,000	0	5,000
8. 報償費	講師謝礼・指導者謝礼	361	0	361
9. 旅費	費用弁償・普通旅費	831	0	831
11. 需要費	消耗品費・燃料費・食糧費・印刷製本費・光熱水費・修繕料	12,575	1,740	14,315
12. 役務費	通信運搬費・手数料・保険料・広告料	1,849	0	1,849
13. 委託料	新博物館展示工事委託・館維持管理・収蔵品移動作業委託ほか	427,766	0	427,766
14. 使用料及び賃借料	テレビ受信料・コピー機リース・収蔵品管理システム利用・自動車レンタル料	708	0	708
15. 工事請負費ほか	施設改修工事・施設備品費	32,273	0	32,273
19. 負担金ほか	日本博物館協会ほか負担金・施設備品費	71	0	71
計		481,544	1,740	483,284

事業別歳出予算内訳

(単位：千円、千円未満切り上げ)

事業名	当初予算額	補正額	補正後予算額
一般経費	251	0	251
博物館施設維持管理経費（新博物館含む）	16,117	1,740	17,857
新博物館整備事業（新博物館建設関連事業含む）	452,946	0	452,946
普及・展示事業	1,897	0	1,897
資料収集・調査研究事業	150	0	150
縄文文化発信事業（縄文・里山文化による誘客促進事業含む）	10,183	0	10,183
計	481,544	1,740	483,284

II 事業の概要

1. 教育普及・展示事業

①教育普及事業

博物館講座

本講座は市民を対象としたもので毎年6月に行われ、平成28年度は「野首遺跡土器の魅力」、平成29年度は「雪」、平成30年度は「信濃川」、本年度は「編布と織布」がテーマである。各回の演題と講師は以下のとおりであり、全3回で計85人の受講者があった(受講料無料)。

第1回：6月15日(土) 「奥会津昭和村のカラムシ栽培」

菅家 博昭 氏 (昭和村文化財保護審議会 委員長)

第2回：6月22日(土) 「縄文時代の編布－織布以前を考える－」

松永 篤知 氏 (金沢大学資料館 特任助教)

第3回：6月29日(土) 「上杉謙信・景勝と青芋」

福原 圭一 氏 (上越市公文書センター 上席学芸員)



講座の様子

古文書入門講座

本講座は古文書解読の初心者を対象としたもので、市内の史料をテキストにして古文書に親しむと共に、郷土の歴史を学ぶことを目的としている。昨年度に続き、講師は林 悦郎氏(博物館友の会・古文書研究グループ)にお願いした。今年度は「五人組帳」、「村明細帳」、「庚申縁記」などをテキストとしている。今年度は12月から博物館が休館となったため、6～11月の土曜日(隔週・午前)に行われ、回数は全12回である。今年度の受講生は計12人、内2人が新規の申し込み、その他は昨年度からの継続であった。また、受講生よりテキスト代(2,000円)を徴収している。

子ども博物館

本事業は、市内の小学4～6年生を対象とした体験教室である。今年度は、8月3日(土)の午後に縄文体験「土器拓本しおり作り」を実施した。定員10名(事前申込)、参加費(材料費)を徴収し、保護者(参加費不要)も参加可能としている。参加者は、17人であった。自分でとった拓本をラミネート加工(名刺サイズ)して、オリジナルのしおりを作っている。また、土器片の接合体験も行った。市内野首遺跡出土の土器を使用している。



子ども博物館の様子

笹山遺跡出土品国宝指定20周年／博物館開館・友の会設立40周年記念講演会

8月31日(土)、山田 康弘氏(国立歴史民俗博物館 教授)を講師に招いて、越後妻有文化ホール「段十ろう」を会場に講演会を開催し、258人が参集した。共催は、博物館友の会、信濃川火焰街道連携協議会である。演題は、「最新の研究成果からわかった縄文時代」である。山田氏は縄文時代の墓制を中心に、社会構造・精神文化について研究されている。当日は、十日町市の発掘調査事例を織り交ぜながら、縄文時代の定義、縄文人の衣食住、葬送儀礼、祭祀、集団構造など広範に渡るお話をいただいた。



講演会の様子

笹山遺跡出土品国宝指定20周年記念シンポジウム「縄文の国宝」

11月9日(土)、天皇陛下御即位記念／第34回国民文化祭にいがた2019／第19回全国障害者芸術・文化祭にいがた大会の十日町市事業として、シンポジウムを開催した。会場は越後妻有文化ホール「段十ろう」で、250人が参集した。このシンポジウムは、縄文時代の国宝が出土している5つの自治体が集まり、縄文文化の魅力を発信するというものである。シンポジウムは以下のとおり2部構成で、「縄文の国宝」ポスターセッションを合わせて行った。また、縄文文化発信サポーターズと信濃川火焰街道連携協議会に後援をお願いしている。

第1部：事例報告「縄文国宝の活用とまちづくり」

- ①「国宝・中空土偶の活用とまちづくり」 福田 裕二 氏 (函館市教育委員会文化財課 学芸員)
- ②「合掌土偶、大活躍です」 小久保 拓也 氏 (八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館 学芸員)
- ③「縄文の女神の里帰りを待ち望んで」 豊岡 将志 氏 (舟形町教育委員会教育課 課長補佐)
- ④「縄文プロジェクト(という怪物)の10年」 山科 哲 氏 (茅野市尖石縄文考古館 学芸員)
- ⑤「国宝・火焰型土器の新たな活用」 菅沼 亘 (十日町市博物館 学芸員)

第2部：スペシャルトーク「縄文と国宝の魅力」

- ①「縄文国宝の楽しい見方、お伝えします！」 譽田 亜紀子 先生 (文筆家)
- ②「縄文と和食」 土井 善晴 先生 (料理研究家)
- ③ 座談会



第1部 事例報告



第2部 土井 善晴 先生 講演



「縄文の国宝」ポスターセッション

②展示事業

博物館開館・友の会設立40周年記念 夏季企画展「博物館と友の会 40年の歩み」

本展は、博物館友の会との共催で開催された。会期は7月27日(土)～9月16日(月・祝)の52日間、観覧者数は計3,077人である。本展では、昭和54年(1979)に開館・設立した博物館と友の会の40年の歩みを紹介した。展示構成は、①「写真で振り返る40年の歩み」、②「友の会だより・火焰のすべて」、③「新しく生まれ変わる博物館」、④「研究グループのあゆみ」である。①では、写真パネルを使用して、40年の歩みを振り返った。②では、友の会の定期刊行物である「火焰」(年3回発行)の創刊号から134号までを一堂に展示している。③では、令和2年(2020)に開館する新博物館の諸室や常設展示室の展示内容などについて紹介した。④では、友の会活動の特徴となっている各研究グループの研究の歩みを振り返っている。



写真で振り返る40年の歩み



友の会だより「火焰」のすべて



研究グループの歩み

ロビー特設展示

文化庁・日本博「時を超えて、日本の美への誘い、万作・萬斎、狂言の世界」展（主催：十日町市文化協会連合会・共催：十日町市）が、8月8日（木）～9月20日（金）まで開催され、博物館ロビーが第2会場となった。第1会場は、越後妻有文化ホール「段十ろう」である。ロビーでは、国宝「風神雷神図屏風」と国宝「火焰型・王冠型土器」の高精細レプリカ（陶製）、狂言装束を展示した。

移 動 展

「十日町きものまつり」に合わせて、5月3日（金・祝）に十日町市市民活動センター「十じろう」ギャラリーにおいて、「十日町のきもの歴史展」を開催した。館所蔵の織物資料を展示し、約700人が来場した。その後、博物館の特別展示室に会場を移し、5月8日（水）～26日（日）まで春季企画展として継続展示している。（菅沼 亘）



きもの歴史展（十じろう）



きもの歴史展（博物館）



「日本の美への誘い」展

③博学連携

現代の私たちは歴史的文化と自然の中でどのようにふるまい、生きていくべきだろうか。小学校6年生児童の総合学習で、その根源を縄文文化から学びとってもらう活動を行っている。

主 催：火焰街道博学連携推進研究会、共 催：新潟県立歴史博物館・信濃川火焰街道連携協議会
参加校：長岡市立関原小学校、小千谷市立吉谷小学校、十日町市立中条・下条・松代小学校の6年生（計180名）、活 動：学習交流会（7/1、十日町市博物館・同総合体育館）、土器作り（6/25、7/16、中条小学校、笹山遺跡広場・縄文館）、縄文子どもフォーラム2019（11/25、新潟県立歴史博物館）、巡回展「子ども縄文研究展2019」（2/12～25、十日町情報館）（阿部 敬）

④まちの文化歴史コーナー

十日町市市民交流センター（愛称：分じろう）1階の「まちの文化歴史コーナー」（愛称：HAKKAKE）において、博物館収蔵資料の展示を行った。今年度は以下の日程で収蔵資料を展示している。また、まちなか国宝展示として、国宝・火焰型土器No.5（5/3・11/10）、No.6（12/10）、No.7（1/10）、No.8（2/15・16）を展示した。

清田山発見のヒシナイイワシ化石（4/3～6/3）、赤羽根遺跡ほか出土の十日町市最古の主猟具（6/5～8/5）、柳木田遺跡ほか出土の土師器（8/7～10/7）、牛ヶ首遺跡出土の弥生の小壺（10/9～12/9）、寺大門北遺跡ほか出土の古唐津焼（12/11～2/14）、堂ノ上遺跡出土の中世の貨幣（2/19～4/9）

（笠井 洋祐）

⑤職場体験・博物館実習

松代中学校2学年1名（7月9・10日）、十日町中学校2学年2名（7月25・26日）、中条中学校2学年3名（8月5～7日）の計6名（延べ15人・7日間）を受け入れた。体験実習の内容は、博物館の開館準備、図書資料受付、資料整理、発掘調査などである。また、博物館実習は目白大学（日本語・日本語教育学科）より、女子学生1人を受け入れている。期間は、8月1～7日である。（高橋由美子）

2. 新博物館建設事業

①建設工事

平成29年度と30年度の2ヵ年継続工事であり、建物については平成31年3月26日に引渡しとなったが、外構工事は降雪時期の施工による品質・精度低下の懸念から、工期を延長し平成31年度に繰越した。4月より外構工事を行い、令和元年7月4日の竣工検査により建設工事が全て完了した。

新博物館建物概要

構 造：鉄筋コンクリート造／一部鉄骨造／2階建て

敷地面積：5,016㎡ 建築面積：2,197㎡ 延床面積：3,107㎡

【面積比率】交流：367㎡（11.8％） 展示：976㎡（31.4％） 収蔵：773㎡（24.9％）

研究：100㎡（3.2％） 管理：592㎡（19.1％） 機械室：299㎡（9.6％）



新館の外観（正面）



新館の外観（上方から）

受注施工業者及び契約額

区 分	受 注 者	最終契約額（税込）
建 築 本 体	村山・サンウッド特定共同企業体	1,094,561,640円
電 気 設 備	村尾・信栄特定共同企業体	216,432,000円
機 械 設 備	拓越・美佐伝特定共同企業体	432,641,520円
工 事 監 理	石本・阿部設計共同体	39,960,000円

隣接地取得・「緑の広場」改修

博物館の新たな屋外活動スペースとして、建設地に隣接している用地を取得した。隣接地内の建物移転後、外部通路と同じ高さに造成し、芝生・植栽にて仕上げた。

隣接する「緑の広場」において改修工事（都市計画課）が行われ、芝生の公園へと生まれ変わった。博物館・緑の広場・情報館をつなぐ通路も整備され、文教エリアとして一体的な利用が可能となった。

取得面積：735.53㎡ 取得費用：67,933,609円（建物移転補償費含む）

主な動き

4月～：外構工事

7月4日：工事竣工検査

9月3日：購入備品搬入・設置

12月2日：旧博物館休館

12月10日：事務室移転、国宝移動

1月14日：着物関係資料（重文）移動

2月4日：重要文化財「越後縮の紡織用具及び関連資料」の一部移動

（若月 辰則）

②展示工事

平成31年3月末で本体建物が竣工し、4月から展示工事が開始された。主な作業内容は、以下のとおりである。

- 4～5月 移築民家の新館への移設工事に伴い、民家内部と周囲の展示資料の撤去
- 6月 移築民家の解体作業、民家部材の燻蒸（新館トラックヤード）
- 7月 新館・移築民家の組み上げ、旧館・力織機と高機の移設、常設展示室壁面クロス貼り
- 11月 展示ケース搬入
- 12月 常設展示室造作・什器工事、エントランス・什器工事、模型搬入
- 1月 導入展示室・造作工事
- 2月 映像装置・ソフトインストール、常設展示室・グラフィック貼り
- 3月 常設展示室・エントランス・サイン工事、動画ナレーション録音



移築民家解体作業（旧館）



移築民家組み上げ作業（新館）



力織機搬出作業（旧館）

③資料燻蒸・移動作業

令和元年12月2日(月)をもって、新館オープン準備のため、現博物館は休館している。12月上旬に事務室の機能を新館に移し、その後、国宝「笹山遺跡出土品」を新館・考古収蔵庫へ移動した。翌年1月中旬には、燻蒸済の着物資料を新館・着物収蔵庫へ、続く2月上旬に重文「越後縮の紡織用具及び関連資料」の内、燻蒸済の指定品を新館・民俗収蔵庫へ移動している。また、令和元年11月下旬には、新館展示室に展示する資料の燻蒸作業（業者委託）を新館トラックヤードにおいて行った。来年度以降も、継続して燻蒸作業を実施し、重文「十日町の積雪期用具」を含む重文指定品を、新館収蔵庫へ段階的に移動する予定である。



新館トラックヤードでの燻蒸作業

（菅沼 亘）

3. 縄文文化発信事業／縄文・里山文化による誘客促進事業

昨年度は、ジャポニスム2018の海外展や東京国立博物館での縄文展など、市外へ向けた発信の機会に恵まれたが、今年度も笹山遺跡出土品の国宝指定20周年という節目の年であり、新潟県では国民文化祭が開催されるなど事業が充実した年であった。

①国宝・高精細レプリカ展示

期間：5月3日(金) 会場：越後妻有文化ホール「段十ろう」、分じろう

地方創生推進交付金を活用して製作した国宝・火焰型土器No.1と、王冠型土器No.15の高精細レプリカを成人式会場（段十ろう）において公開した。高精細レプリカは大きさ、重さ、質感とも、ほぼ実物と同じに製作され、「触れることのできる国宝」として多くの方に体感していただいた。また、同日には、市民交流センター・分じろう内の「まちの文化歴史コーナー」において、まちなか国宝展示として国宝・火焰型土器No.5の実物を展示した。

②国宝指定20周年記念講演会「縄文の美を捉える」

期間：6月1日(土) 会場：越後妻有文化ホール「段十ろう」

国宝指定20周年記念事業の第1段として、東京国立博物館・考古室長の品川 欣也氏を招いて、「縄文の美を捉える」と題する講演会を開催し、約300名が来場した。品川氏は、平成30年7月に約35万人の入場者を記録した東京国立博物館の特別展「縄文－1万年の美の鼓動」を担当されている。この特別展では、野首遺跡出土品の前で当時の皇太子殿下（現天皇陛下）が長く足を止めてご覧になられていたというエピソードが披露された。また、「縄文の美を今に伝える国宝・火焰型土器は、まさに地域の宝であり、それを守るために十日町市は努力をしていることに敬意を表する」と話されている。



講師の品川 欣也氏

③「日本の美への誘い展」開催（日本博関連事業）

期間：8月8日(木)～9月20日(金) 会場：博物館ロビー

8月8日、博物館で行われたオープニングセレモニーには、人間国宝の野村万作氏が来場して、テープカットが行われた。博物館ロビーには、野村万作氏や野村萬斎氏が狂言舞台で使用した小物や衣装などの展示のほか、人間国宝と国宝つながりで国宝・火焰型土器や国宝・風神雷神図屏風、国宝・キトラ古墳壁画の高精細レプリカが展示され多くの人が観覧した。この展覧会は、文化庁の日本博事業のひとつとして実施されている。



オープニングセレモニー

④国宝指定20周年・博物館開館・友の会設立40周年記念講演会「最新の研究からわかった縄文時代」

期間：8月31日(土) 会場：越後妻有文化ホール「段十ろう」

国宝指定20周年と博物館開館・友の会設立40周年を記念して、国立歴史民俗博物館の山田 康弘氏を招いて、「最新の研究からわかった縄文時代」と題する講演会を開催した。遠くは大阪や宮城からの参加者があった。笹山遺跡のほか、野首遺跡や栗ノ木田遺跡などの事例も取り上げられ、最新の縄文時代研究についてわかりやすくお話していただいた。十日町市は土偶など呪術道具が少ない地域で、祈る必要性のないほど当時は豊かだったのではないかというお話もあった。



講師の山田 康弘氏

⑤J R大宮駅デジタルサイネージ掲載

期間：10月1日(火)～10月31日(木) 会場：J R大宮駅・東西連絡通路

十日町商工会議所の協力により、J R大宮駅にデジタルサイネージを掲載するのは4回目である。J R大宮駅の東西連絡通路にある70インチモニター（42面）に6分間隔で15秒の動画を掲載した。今回は、「国宝・火焰型土器のクニ 新潟県十日町市」の映像の中で、令和2年にオープンする新十日町市博物館のPRを行っている。

⑥映画「縄文にハマる人々」上映会

期間：10月9日(水) 会場：越後妻有文化ホール「段十ろう」

2018年に封切りされた映画「縄文にハマる人々」は、当博物館においてロケが行われている。パリのジャポニスム2018においても上映された映画である。新潟日報社「新潟みらい大学」として上映会が開催され、約200名の参加があった。映画終了後、山岡信貴監督と博物館長とのトークショーが行われている。主催は十日町市文化協会連合会と新潟日報社である。



トークショーの様子

⑦国宝指定20周年記念シンポジウム「縄文の国宝」

期間：11月9日(土) 会場：越後妻有文化ホール「段十ろう」

国宝指定20周年記念シンポジウム「縄文の国宝」を、第34回国民文化祭の主要事業として開催した。第1部は北海道函館市、青森県八戸市、山形県舟形町、長野県茅野市と十日町市の縄文国宝が出土した自治体の学芸員による、「縄文国宝の活用とまちづくり」と題した事例報告を行った。第2部はスペシャルトークとして、土偶女子として活躍されている譽田 亜紀子先生(文筆家)の「国宝土偶の楽しい見方、お伝えします!」と、テレビなどで活躍されている土井 善晴先生(料理研究家)の「縄文と和食」と題する講演が行われた。また、5つの自治体による「縄文の国宝」ポスターセッションも行った。



講師による座談会

⑧縄文・里山文化による誘客促進事業(地方創生推進交付金事業)

地方創生推進交付金を活用して、平成29・30年度に国宝・火焰型土器と王冠型土器の高精細レプリカを各2点ずつ製作しているが、今年度は火焰型土器の鶏頭冠突起をモチーフにした大型のモニュメントを製作した。新博物館の入口付近に設置し、インスタ映えするスポットとなるよう活用していきたい。また、新博物館のロゴマークを業者委託により作成した。(佐野 誠市)

4. 資料の収集・貸出

①資料の寄贈

博物館では、市民から資料の寄贈を受けている。今年度は、11件の寄贈を受けた(受付番号15033～15043・令和2年3月31日現在)。内容は、着物(しぼり紺地長着、銘仙ほか)、庚申講道具、昔のステレオ、六角行燈、古文書などである。

②実物資料の貸出

資料の貸出状況は以下のとおり、考古資料6件、古文書資料1件、工芸品1件の計9件である。国宝・笹山遺跡出土品の貸出は1件であった。(菅沼 亘)

貸 出 先	資 料 名(点数)	目 的(展覧会名・会期など)
新潟県埋蔵文化財センター	森上・カウカ平A・笹山遺跡火焰型土器 計3点	常設展示室での展示(4～8月、9～12月、1～3月)
	南雲遺跡大珠2点、寿久保遺跡大珠1点、長者原遺跡勾玉1点、梶花遺跡ヒスイ加工品1点 計5点	秋季企画展「海をわたったヒスイ」(9/6～12/8)
長岡市馬高縄文館	野首遺跡深鉢11点、土製品25点、石製品3点 計39点	夏季特別展「馬高式土器とその文化」(7/20～9/1)
	中島遺跡深鉢5点・土偶4点・石棒2点 計11点、寿久保遺跡深鉢1点、野首遺跡深鉢2点 計14点	秋季特別展「三十稲場式土器とその文化」(9/21～11/4)
津南町なじもん	野首遺跡・樽沢開田遺跡出土品ほか 計26点	秋季企画展「技と造形の縄文世界」(9/7～11/4)
新潟県立歴史博物館	国宝・笹山遺跡火焰型土器(No.6)1点、笹山遺跡火焰型・王冠型土器2点 計3点	特別展「国民の文化財、あ、これ知ってる!はにわ、どぐう、かえんどきの昭和平成」(9/14～11/4)
星と森の詩美術館	スノリア工芸品ほか 計17点	「没後40年、星裏一もう一つの挑戦」(6/7～7/28)
新潟市歴史博物館	蕪木元昭家文書(市史No161) 1点	「新潟港開港150周年記念展」(7/13～8/25)

実物資料の貸出一覧

③写真資料の貸出

写真資料の貸出件数は計180件(令和2年3月31日現在)、主な貸出状況は以下のとおりである。国宝・笹山遺跡出土火焰型土器をはじめとする考古資料が8割以上を占めている。使用目的では教材・テストなど教育関連が最も多く、今年度はTV番組や雑誌での使用が増加した。(引間 佳子)

貸 出 先	出 版 物	貸 出 資 料	備 考
京都工芸繊維大学	一般入試 総合問題（デザイン・建築学課程）	国宝・笹山遺跡出土深鉢形土器	入試問題
株式会社帝国書院	教科書表紙		教科書
テレコムスタッフ株式会社	英雄たちの選択 原始日本 S P		TV番組
株式会社エッジ	NHK BS8K4K「8K 国宝シリーズ プロローグ」		TV番組
株式会社 T B S スパークル	彩 ～日本遺産～		TV番組
南魚沼市教育委員会	特別展『雪の恩返し～越後上布・米・鈴木牧之と北越雪譜～』	「越能山都登」糸くり・撚りかけ	特別展
新潟市歴史博物館	第16回むかしのくらし展 布とむかしのくらし	蚕、カラムシ	特別展

写真資料の貸出一覧（主要なもの）

5. その他の事業

①雪文化三館提携事業

令和元年度は当番館であった。6月3日(月)に事務局会議、7月11日(木)には総会を開催している。また、三館パンフレットの増し刷りは行わなかった。

III 博物館友の会

博物館友の会は昭和54年に発足し、会員は令和2年3月現在で610名である。植物・古文書・いしぶみ・歴史・方言・考古・近代史（世界遺産を学ぶ会）・きもの・民俗の9つの研究グループが、研究活動を行っている。今年度の主な活動は以下のとおりである。なお、毎年開催されている雪まつり「はくぶつかん広場」（2月）は博物館休館中のため開設されず、また、研究グループ発表会（3月）はコロナウィルス感染症対策のため中止された。

平成31年4月13日(土) 平成31年度総会・新博物館見学会 参加者：23名

令和元年5月18日(土) 火焰134号発行

6月12日(水) 第88回文化財めぐり

「新元号「令和」ゆかりの施設を訪ねる富山の旅
～万葉集を編集した大伴家持の赴任地・高岡へ～」

参加費：8,000円 参加者：27名

7月6日(土) 庚申供養祭 会場：郷土植物園 参加者：22名

9月14日(土) 火焰135号発行（40周年記念特集）

令和2年2月22日(土) 火焰136号発行

(石原 正敏)

附編 博物館関連データ（補遺）

①入館者数の推移

年 度	大 人		小 人		合 計 ()内団体数	備 考
	個 人	団 体 (数)	個 人	団 体 (数)		
平成28 (2016)	12,636	1,232 (37)	1,164	1,405 (32)	16,437 (69)	
平成29 (2017)	12,033	962 (32)	1,251	1,126 (26)	15,372 (58)	
平成30 (2018)	13,198	780 (27)	1,374	1,045 (32)	16,397 (59)	第7回大地の芸術祭
平成31 令和元 (2019)	9,537	1,042 (32)	1,195	566 (8)	12,340 (40)	開館・友の会設立40周年 新館開館準備のため休館 (12/2～)
総 計	447,373	134,808 (4,122)	89,055	73,890 (1,645)	745,126 (5,767)	昭和56(1981)からの総計

(大人は高校生以上・小人は中学生以下、団体は20人以上・小人の団体は学校単位)

②これまでに開催された企画展・特別展

年 度	特別展・企画展等の名称 (期間)
平成29	特別展：「動物の意匠―人と生き物のかかわり―」(9/30～11/5) 企画展：「野首遺跡出土品のすべて」(7/22～8/27) 巡回展：新潟県埋蔵文化財センター巡回展「縄文の造形美―六反田南遺跡―」(7/8～8/27) 火焔街道博学連携プロジェクト「子ども縄文研究展2017」(1/20～2/18) 移動展：「十日町のきもの歴史展」(5/3～4・十じろう)、「野首遺跡出土品展」(11/5・下条中学校) 雪文化3館提携25周年記念展「雪と生活」(9～11月)
平成30	特別展：「機織りのムラ 馬場上遺跡」(9/29～11/4) 企画展：「十日町のきもの歴史展」(5/8～27)、「縄文土器繚乱―十日町市の土器いろいろ―」(7/28～8/26) 巡回展：火焔街道博学連携プロジェクト「子ども縄文研究展2018」(1/4～2/17) 移動展：「十日町のきもの歴史展」(5/3・十じろう)
令和元	企画展：「十日町のきもの歴史展」(5/8～26)、開館・友の会設立40周年記念「博物館と友の会 40年の歩み」(7/27～9/16) 移動展：「十日町のきもの歴史展」(5/3・十じろう)

③これまでに開催された博物館講座

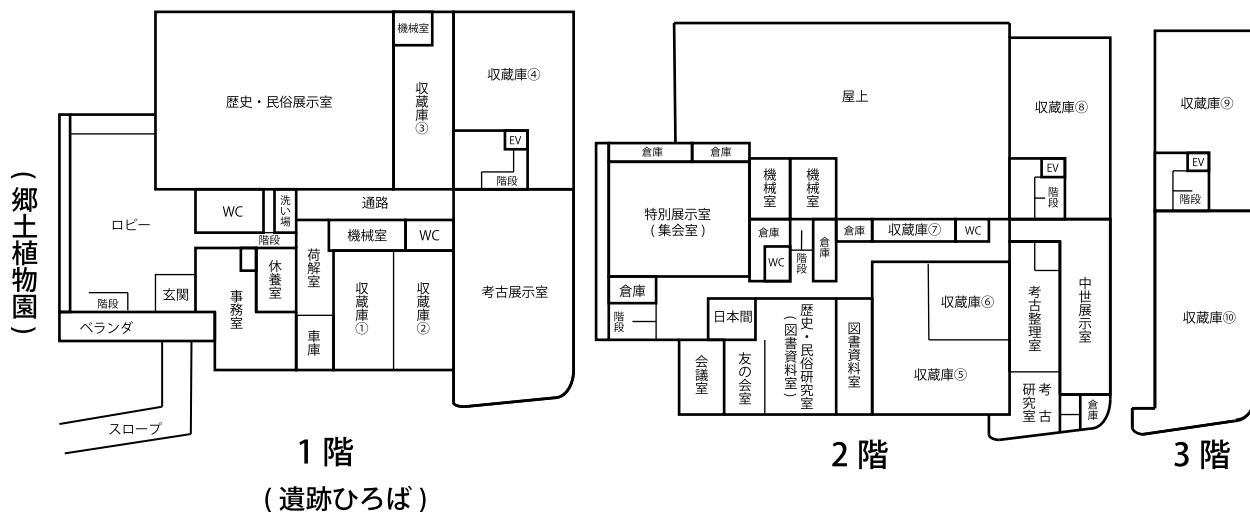
年 度	テーマ・日時・演題・講師（敬称略、所属は当時）
平成30	郷土の遺産Ⅶ 信濃川 ① 6/9 「信濃川と旧石器・縄文人の関わりについて」佐藤 信之（津南町農と縄文の体験実習館なじょもん） ② 6/16 「信濃川の河岸段丘―変動する大地の証拠―」竹之内 耕（フォッサマグナミュージアム） ③ 6/23 「信濃川の木造船について」森 行人（みなとびあ 新潟市歴史博物館）
令和元	郷土の遺産Ⅷ 編布と織布 ① 6/15 「奥会津昭和村のカラムシ栽培―日本各地と台湾の事例―」菅家 博昭（昭和村文化財保護審議会委員長） ② 6/22 「縄文時代の編布―織布以前を考える―」松永 篤知（金沢大学資料館特任教授） ③ 6/29 「上杉謙信・景勝と青苧」福原 圭一（上越市公文書センター上席学芸員）

④これまでに開催された子ども博物館

年 度	日時・体験内容
令和元	① 8/3 「土器拓本・しおり作り」

(作表：田村 薫)

施設概要



<建物の床面積>

1 階	1,855 ㎡
2 階	1,439 ㎡
3 階	458 ㎡
その他	56 ㎡
合計	3,808 ㎡

<屋内施設>

歴史・民俗展示室	476 ㎡
考古展示室	278 ㎡
中世展示室	115 ㎡
特別展示室(集会室)	181 ㎡
展示室 計	1,050 ㎡

収蔵庫①	79 ㎡
収蔵庫②	79 ㎡
収蔵庫③	104 ㎡
収蔵庫④	191 ㎡
収蔵庫⑤	160 ㎡
収蔵庫⑥	69 ㎡
収蔵庫⑦	23 ㎡
収蔵庫⑧	164 ㎡
収蔵庫⑨	164 ㎡
収蔵庫⑩	247 ㎡
収蔵庫 計	1,280 ㎡

事務室・休養室	123 ㎡
歴史・民俗研究室・資料室	143 ㎡
考古研究室・整理室	115 ㎡
会議室・日本間・友の会室	94 ㎡
その他	1,003 ㎡
共用部 計	1,478 ㎡

<屋外施設>

郷土植物園	3,010 ㎡
遺跡ひろば	3,008 ㎡



博物館の外観



遺跡ひろば(昭和63年開園)



郷土植物園(昭和61年開園)

<平成31・令和元年度 博物館職員>

館長	佐野 誠 市	嘱託職員	田村 薫 (調査研究員)
副館長	石原 正 敏 (学芸員)	臨時職員	引間 佳 子
副参事	笛田 晃 (業務係長)	〃	春川 奈嘉子
〃	菅 沼 亘 (学芸員)	〃	宮澤 早 記
〃	村山 步		
主査	大滝 孝 子		
〃	高橋 由美子 (学芸員)		
〃	笠井 洋 祐 (学芸員)		
〃	阿部 敬 (学芸員)		
主任	若月 辰 則 (技 師)		
〃	黒田 朋 美		
主事	田村 典 子		

十日町市博物館 年報 第6号

編集・発行：十日町市博物館

〒948-0072 新潟県十日町市西本町1-448-9 TEL:025-757-5531 / FAX:025-757-6998
 URL: <http://www.tokamachi-museum.jp> / e-mail: museum.10@city.tokamachi.lg.jp
 発行日：令和2年(2020)3月31日 印刷：株式会社 滝沢印刷